

図書館総合展2024（2024年11月18日）

「DXで実現するこれからの大学図書館～学術情報システムを支える仕組みや制度を捉え直す～」

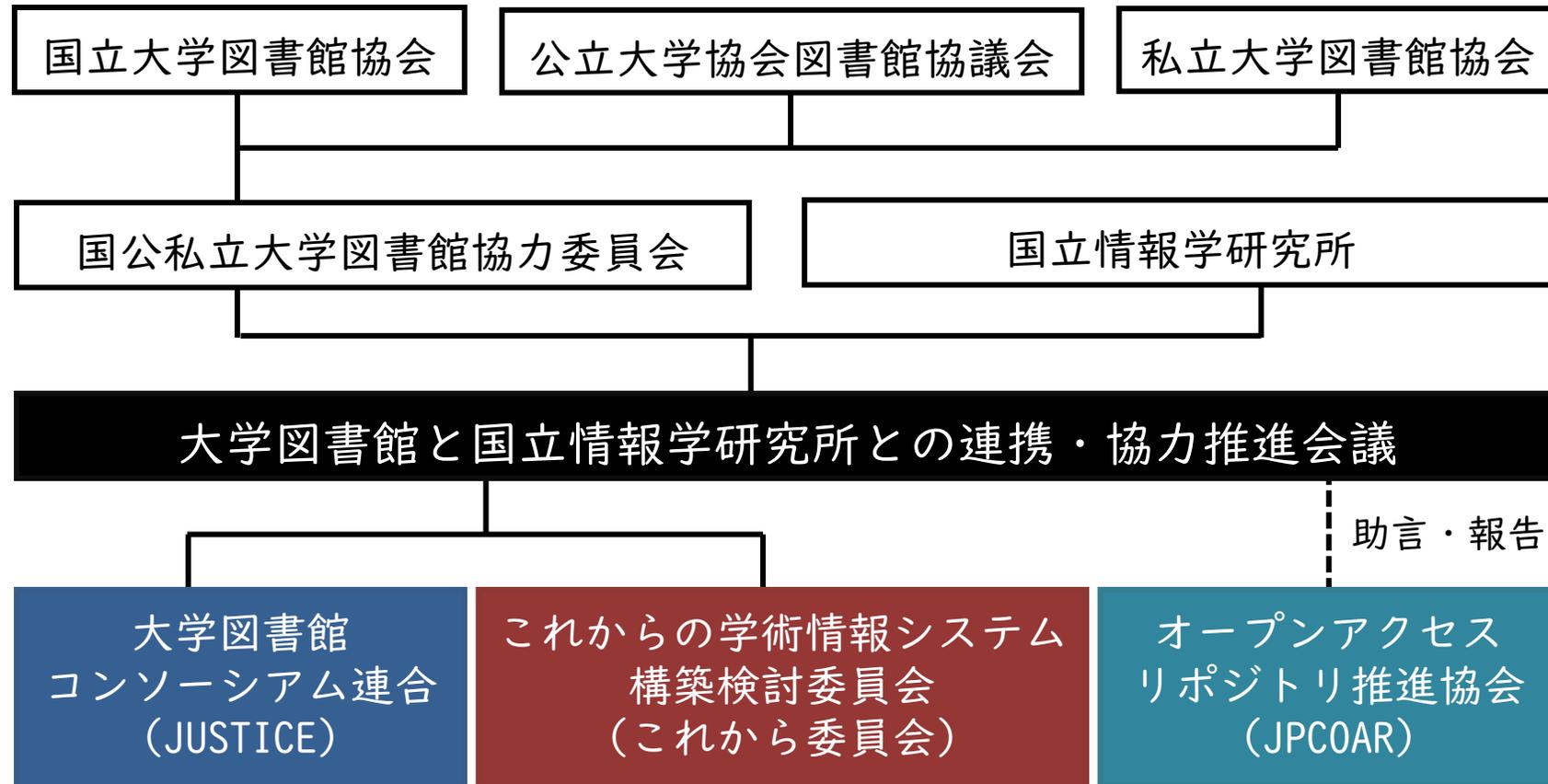
これからの学術情報システム構築検討委員会は 次のステージへ

これからの学術情報システム構築検討委員会
小山憲司（中央大学）

目次

- 検討体制の概要
- 検討の経緯
- 本委員会の解決課題と検討体制
- まとめ

検討体制の概要



	委員会	電子リソース	目録システム
2012	委員会設置	ERDBプロトタイプ構築プロジェクト (-2013)	
2014		電子リソースデータ共有WG	
2015	<u>「これからの学術情報システムの在り方について」</u>	電子リソースデータ共有作業部会 設置 ERDB-JP公開	NACSIS-CAT検討作業部会 設置 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針案の要点）」
2016		「電子リソース管理システムの利用可能性の検証について（平成28年度最終報告）」	「基本方針」 「実施方針」
2017	これからの学術情報システムに関する意見交換会2017	「同（2017年度最終報告）」	
2018	<u>「これからの学術情報システムの在り方について（2019）」</u>	「電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築についての検討（2018年度報告）」 他	「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）」（→CAT2020）
2019	作業部会の再編	システムモデル検討作業部会 システムワークフロー検討作業部会	
2020			CAT2020開始（8/3）
2021		「大学図書館向け学術情報システムを36年ぶりに一新」	
2022		ユーザーグループ試行運用 「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について(2022)」	
2023	作業部会の再編 <u>「これからの学術情報システム構築検討委員会 が実現を目指すこと」</u>	ユーザーグループ本運用（4/1） ユーザーグループ運営作業部会、システムワークフロー検討作業部会	新NACSIS-CAT/ILL（1/31）
2024	<u>「これからの学術情報システムの在り方について（2024）」</u>		

本委員会の解決課題と検討体制

方針文書	検討体制
在り方（2015）	<div data-bbox="611 514 1133 664">電子リソースデータ 共有作業部会</div> <div data-bbox="1159 514 1681 664">NACSIS-CAT検討 作業部会</div>
在り方（2019）	
目指すこと（2023） 在り方（2024）	

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

2. 進むべき方向性

これからの学術情報システムに求められるのは、ユーザーが必要とする学術情報を直接的かつ迅速に入手することができる環境であり、これらを実現するために、以下の3点を推進する必要がある。

- (1) 統合的発見環境の提供
- (2) メタデータの標準化
- (3) 学術情報資源の確保

3. 本委員会の当面の課題

上記の学術情報資源の変化に鑑み、進むべき方向性を見据えて、以下の2点を当面の課題とする。

- (1) 電子情報資源のデータの管理・共有
- (2) NACSIS-CAT/ILLの再構築 (軽量化・合理化)

本委員会の解決課題と検討体制

方針文書	検討体制
在り方（2015）	<pre>graph TD; A[電子リソースデータ共有作業部会] --> C[システムワークフロー検討作業部会]; B[NACISIS-CAT検討作業部会] --> D[システムモデル検討作業部会];</pre>
在り方（2019）	
目指すこと（2023） 在り方（2024）	

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2019年2月)

3. 進むべき方向性

これまでの検討を踏まえ、これからの学術情報システムが実現すべき機能及び検討課題について、以下の5点にまとめた。

- (1) 統合的発見環境を可能にする新たな図書館システム・ネットワークの構築
- (2) 持続可能な運用体制の構築
- (3) システムの共同調達・運用への挑戦
- (4) メタデータの高度化
- (5) 学術情報資源の確保

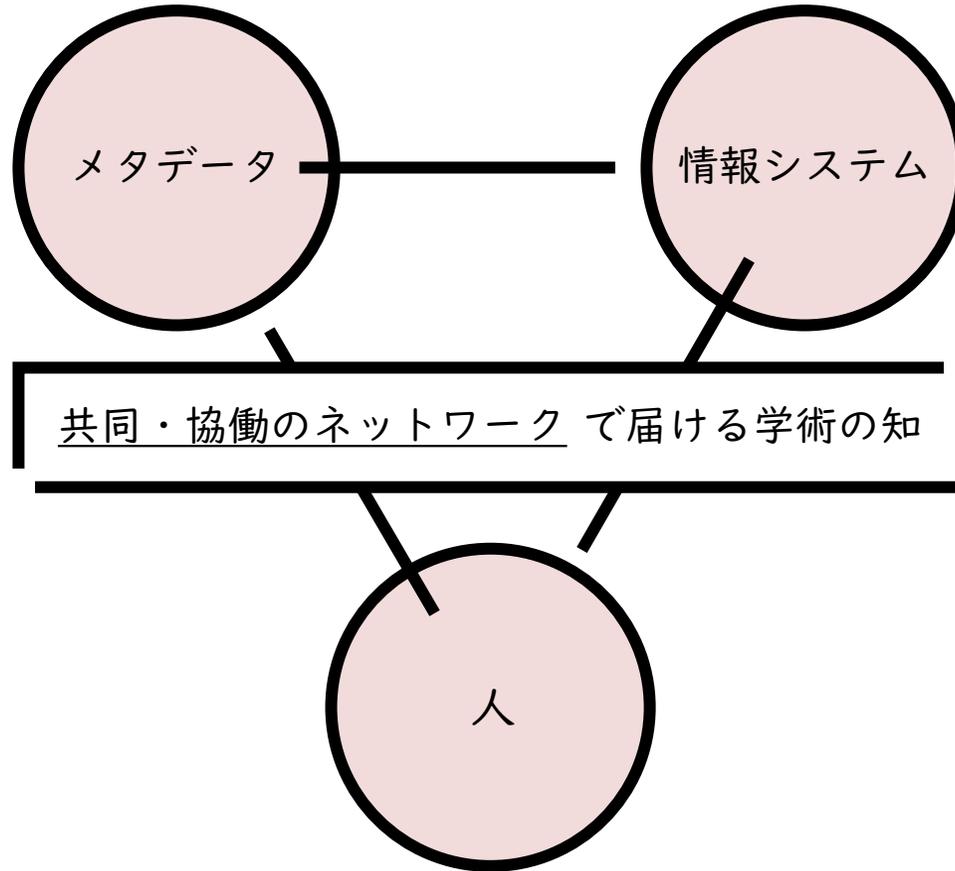
4. 次に取組むべき課題

本委員会では、3のうち、次に取組むべき課題を以下の3点とする。

- (1) 統合的発見環境を可能にする新たな図書館システム・ネットワークのモデル構築
- (2) 持続可能な運用体制の構築
- (3) システムの共同調達・運用に向けた課題検討

本委員会の解決課題と検討体制

方針文書	検討体制
在り方（2015）	<p>電子リソースデータ共有作業部会</p> <p>NACSIS-CAT検討作業部会</p>
在り方（2019）	<p>システムワークフロー検討作業部会</p> <p>システムモデル検討作業部会</p> <p>図書館システム・ネットワーク協会（仮称）を提案（2021年7月）</p>
目指すこと（2023） 在り方（2024）	



図書館におけるDXの再定義

1980年代から続く共同・協働の成果

- ・参加機関 1339機関
- ・書誌/所蔵 1350万件/1億5000万件
- ・相互貸借 2450万件

(令和5(2023)年1月31日現在)

2020年代の課題

- ・情報流通のデジタル化・多様化
- ・研究教育活動のデジタル化

→アクセス性の担保が急務に

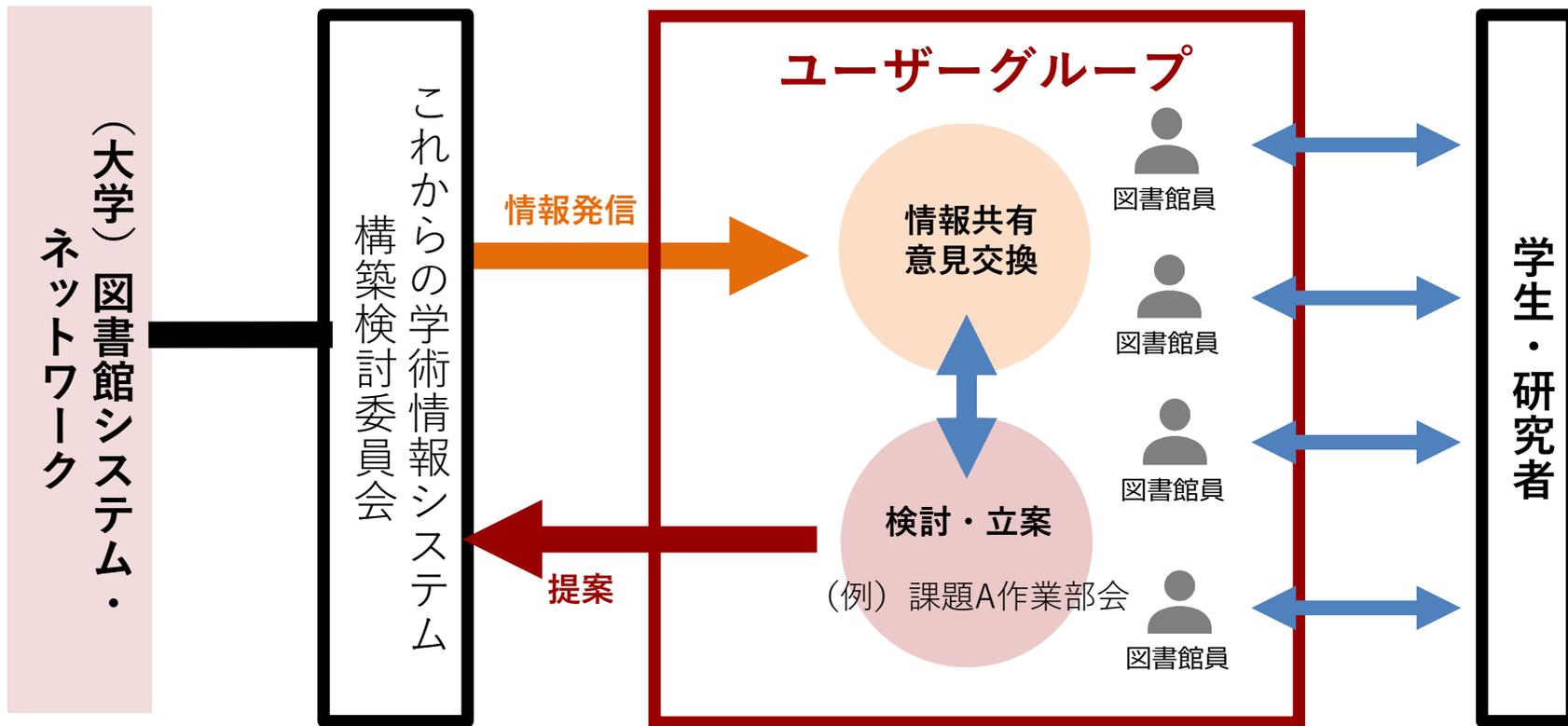
組織をつなぐ3つのネットワークの確立

- メタデータのネットワーク
 - ・外部連携と相互運用性の向上
 - ・研究データ・デジタルアーカイブ対応
- 情報システムのネットワーク
 - ・共同利用システムの構築
- 人のネットワーク
 - ・ユーザーグループでの交流・議論
 - ・人的リソースの共有による課題解決

当面の整備目標

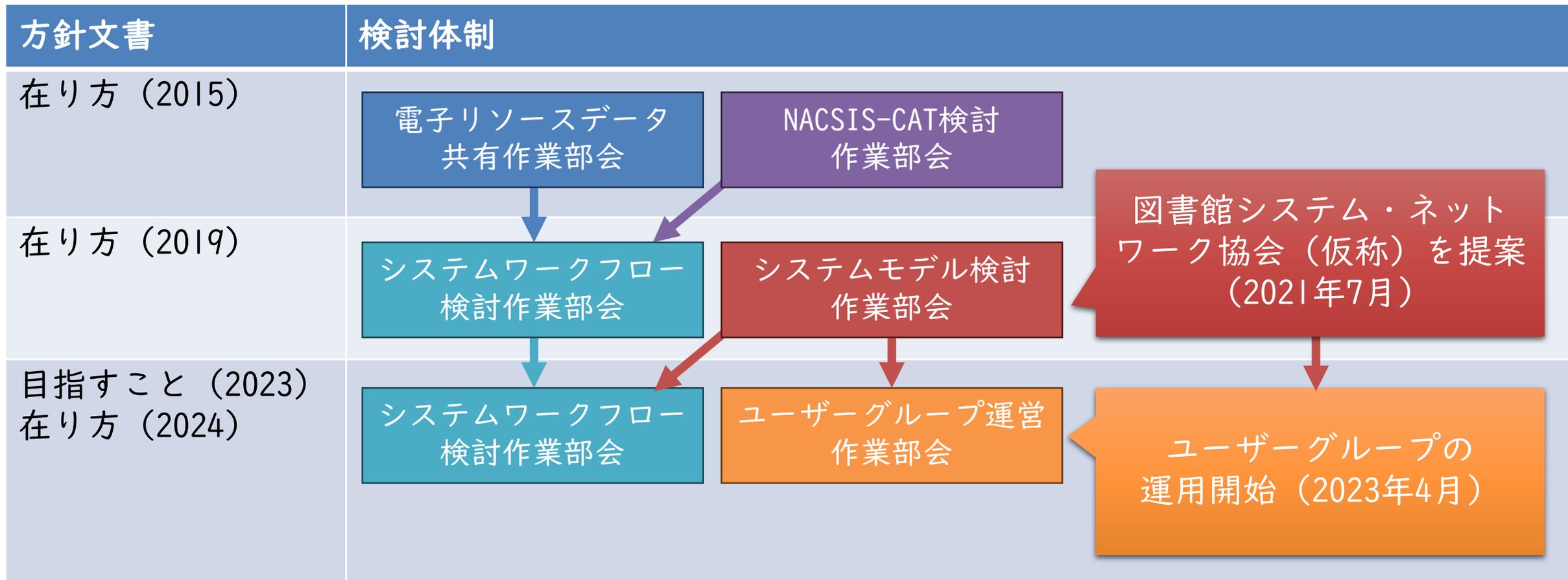
- ① 国内電子ブックのメタデータを共有する
- ② 電子リソースのタイトル・ライセンス情報を整備する
- ③ オープンかつ国際的なメタデータ流通に貢献する
- ④ 情報の種別を問わない図書館システムを構築する
- ⑤ 多様なコンテンツの発見・アクセス環境を実現する

情報や課題の共有、意見交換の場としての ユーザーグループ



- これからの学術情報システム構築検討委員会、「(大学)図書館システム・ネットワーク」の参加機関とそこに所属する職員が、機関、地域、担当を越えて、意見や情報の交換を行う。
- 各機関が抱える課題や要求が顕在化され、共通課題の解決を図ることができるよう。
- 継続することで、学術情報コミュニケーションに関わる人材の育成、能力開発の場となる。

本委員会の解決課題と検討体制



2024年2月6日

これからの学術情報システム構築検討委員会

これからの学術情報システムの在り方について（2024）

はじめに

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下に設置された「これからの学術情報システム構築検討委員会」（以下「本委員会」）は、その基本方針と短期の実現目標を提示した「これからの学術情報システムの在り方」を2015年と2019年に公表し、電子情報資源のデータ管理・共有のワークフローの検討及び統合的発見環境の実現に取り組んできた。

学術情報システムを巡って、大学等の図書館（以下「図書館」）は、さらなるデジタルトランスフォーメーション（DX）の促進による利用者サービスの向上や業務効率化が求められている。これに対応するため、図書館は、自ら資料をデジタル化し、他者のデジタル化を支援する

1. 在り方(2024)のビジョン

本委員会は以下の3点を推進するため、国内外の学術情報にかかるメタデータを活用できる仕組みや制度の整備、共同利用システムの構築、人的リソースの共有や交流を推進する共同・協働のネットワークを確立する。

(1) 研究者や学生等が研究、教育、学習に必要な学術情報をワンストップで、簡便に検索、入手できる。

(2) 図書館は、多様なメタデータの組み合わせや、共同利用システムの活用により、目録業務の効率化をはじめ、最適なサービスを実現できる。

(3) 図書館はまた、学内の関係部署と連携し、大学等の機関で生産される論文、図書、研究データ等の成果をデータとして把握でき、学内外のユーザーに提供できる。

2. 在り方(2024)の活動目標

- (1) 図書館システム・ネットワークの機能強化[(1)、(2)]
 - ①メタデータの共同利用システムへの集約
 - ②統合的なデータベースの構築と図書館システムとの連携
 - ③次世代検索サービスの検討と実現
- (2) システムの共同調達・運用の支援[(2)]
- (3) オープンなメタデータ交換の推進[(1)、(2)]
- (4) メタデータの多様化に対応できる人材の育成[(2)、(3)]
- (5) 学術情報資源の把握と共有[(1)、(2)、(3)]

3. 検討体制

2 の具体的な取組みは、大学図書館等と国立情報学研究所との連携の下、以下の体制で進める。

- (1) 本委員会の下に、上記方針に対応した新たな検討体制を組織する。
- (2) ライセンスされた電子情報資源の確保を強化する「大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE)」、大学等の研究成果の発信システムを強化する「オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR)」とともに課題の解決に向けた具体的な取組みに着手する。
- (3) 大学図書館の各協(議)会等及び関係諸機関と一層の連携を図る。

3. 検討体制

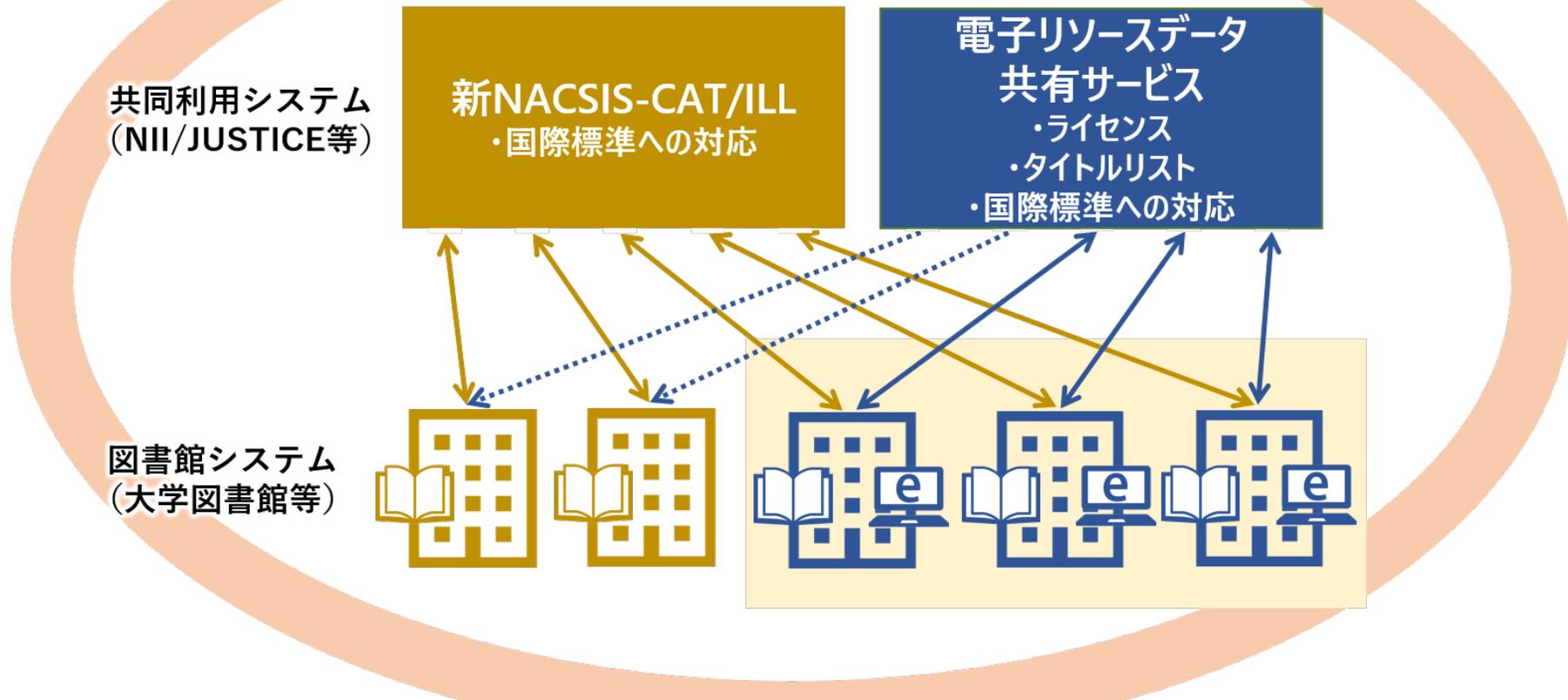
2 の具体的な取組みは、大学図書館等と国立情報学研究所との連携の下、以下の体制で進める。

(1) 本委員会の下に、上記方針に対応した新たな検討体制を組織する。

システムワークフロー検討作業部会
(主査：飯野勝則 佛教大学図書館専門員)

ユーザーグループ運営作業部会
(主査：安達匠 國學院大學学術メディアセンター事務部図書館担当次長)

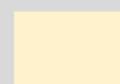
図書館システム・ネットワーク（大学等）



印刷体に対応したシステム



電子リソースと印刷体に対応したシステム



将来の共同調達・運用が検討されている領域



データ連携（CATP）



ダウンロード利用等



相互のデータ連携等

本日のスケジュール

時間	内容
14:00-14:10	これからの学術情報システム構築検討委員会は次のステージへ 小山憲司（中央大学）
14:10-14:30	「在り方（2024）」の具体化に向けた図書館システムワークフロー部会の活動 飯野勝則（佛教大学図書館）、吉田幸苗（国立情報学研究所）、小山憲司
14:30-14:50	図書館システム・ネットワーク ユーザーグループにおける取組状況 安達匠（國學院大學学術メディアセンター）
14:50-15:20	NIIサービス説明 阪口幸治、三村千明（国立情報学研究所）
15:20-15:30	質疑応答

ご清聴ありがとうございました